

竹筒のハチ日記

清水 颯太¹⁾

はじめに

家の庭にやってくるミツバチやアシナガバチを観察していると、どんな所で巣作りしているのかといろいろな疑問がわいてきました。また沢山の種類がいることを聞き、さらに興味を持ちました。そこで、佐用町昆虫館に仕掛けてあった竹筒トラップをゆずっていただき、観察してみることにしました。竹の中には、どんなハチがどのように巣作りをしているのか成虫になるまで観察し、まとめました。竹筒は直径が約10ミリのものが多く、両端からコケのようなものがはみ出ているものや、ドロ



図1 竹筒を割っているところ



図2 割った竹筒

でふたしてあるものもありました。まず、竹の穴の部分をおののようなもので半分に割り、中の幼虫たちを傷つけないようにそっと取り出しました(図1、2)。取り出した幼虫やさなぎは、観察できるように透明の容器で個別に管理し、成虫になるまで飼育しました。

結果

1. エントツドロバチ



仕切りと入口にはドロがしっかりつまっていて、一匹ずつ入っている幼虫の部屋ができていた。



クリーム色の丸っこい形の幼虫が出てきた。

¹⁾ Sôta SHIMIZU 神戸市立塩屋北小学校 6年 (2019)



幼虫からハチの形をしたさなぎへと変化した。



胴体のしましま模様がうっすら見えてきて、全体が黒っぽくなってきた。



うすい皮を破って成虫が羽化した。成虫の体は黒く、羽化した直後は羽がしわしわだった。

2. アルマンアナバチ



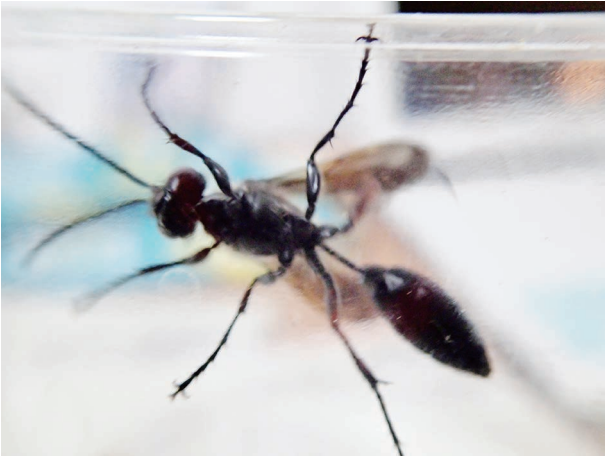
コケは、奥の方がぎゅうぎゅう詰めに、入口に近い方は緑色のものが少しゆるめに詰まっていた層ができていた。



うすくてパリパリしたような皮に包まれているまゆがいくつもつながっていた。



まゆの周りには食べかすが沢山ついてた。食べかすを取り除いて観察すると・・・



その後、突然まゆを破って、中から胴体のとても細い成虫が出てきてびっくりした。

3. シロスジクチキヒメバチ



詰め物はコケ類。細長いまゆがクモなどの虫の死がいと一緒に詰まっていた。



薄いまゆに包まれたさなぎ。黒い頭のような部分が透けて見えている。



体は細長く、お尻にはハリのような長い産卵管があった。触角には白い筋が入っていて、調べてみると寄生蜂のシロスジクチキヒメバチとわかった。もともとこの巣を作ったハチの正体はわからなかった。

4. ムモンオオハナノミ



エントツドロバチだと思って育てていたら、急に別の形の幼虫に変化して不思議だった幼虫。白くて表面に少しとげのようなものがある。



少し黄色味がかったさなぎに変化した。



出てきたのはハチではなく、触角がブラシのようになった体長約 1.5 cmの黒い虫だった。調べてみると、オオハナノミというハチの巣の中で幼虫を食べて育つ寄生虫だとわかってビックリした。

表 1 竹筒から出てきた昆虫

種名	数	詰め物	備考
エントツドロバチ	5	ドロ	仕切りのある幼虫の部屋がある
アルマンアナバチ	7	コケ・草	ササキリモドキなどのエサがあった
シロスジクチキヒメバチ	3	コケ・草	何に寄生したか不明
ムモンオオハナノミ	1	ドロ	エントツドロバチに寄生

おわりに

竹筒トラップの設置してあった佐用町は、千種川水系の佐用川沿いの盆地に形成されていて、その8割が山林です。昆虫館周辺はチョウやトンボなど沢山の昆虫に出会える自然豊かな場所で、竹筒にも4種類のハチや寄生虫がやって来ました。

観察した中には、竹筒の一方はドロでふたがしてあり、もう一方はコケでふたがしてあるものもあり、一本の竹に違う種類のハチが巣作りしていることもわかりました。さらに、竹筒に住むハチの幼虫を食べる寄生虫もいてビックリしました。ぼくはそんなきびしい環境の中でも次の世代へと受け継いでいくために、小さな竹筒の中で必死に巣作りする親バチたちに感動しました。今回のハチの観察を通して、自然のきびしさや虫たちのたくましさを知ったような気がします。

次は、自分で作った竹筒トラップをいろんな所に設置して、どんな所にどんなハチが巣作りするのかなどを調べてみたいです。

最後に、親切にアドバイスをくださったり、また発表を勧めてくださった「子どもと虫の会」の久保さんに厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- 藤丸篤夫, 2014. ハチハンドブック. 文一総合出版, 104pp.
- 松本吏樹郎, 2005. ミニガイド No. 21「竹筒に巣をつくるハチ」. 大阪市立自然史博物館, 31pp.
- 日本竹筒ハチ図鑑. <https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/seibut/bamboohymeno/index-j.htm>